

今月のShikou

第76代生徒会のスローガンは「Shikou」明日を彩る700の色。五つの意味をもたせた「Shikou」の中から今回は「至高」の取組を紹介いたします。「至高」は「この上なく高いこと」という意味です。

この「至高」を達成するために一年生も生徒会活動に一生懸命取り組んでいます。今回は三年生の学年専門部会や、生徒会活動の取組の様子を見て感じたことについて、一年生にインタビューをしました。

Q. 「3年生の学年専門部会や生徒会活動の様子から」といいます。

どのようなことを感じましたか。

A. 「それぞれの部が、課題を見つけて話し合っていて、いつか成長したら、私も先輩たちみたいにできるのかなと思います、がんばっていきましょう。」

Q. 「少ない話し合いの時間でも活発に意見が出ていて、その意見を瞬時にまとめている、とてもかっこいいなと思いました。」

Q. 「小学校での委員会活動と中学校の生徒会活動には何か違いがありましたか。」

A. 「小学校では、委員会の中で意見を出し合っていたのですが、中学校では、他の部の意見を貰っていて、その点が違うと思いました。」

「小学校は主に先生の協力」

を得ての話し合いでしたが、中学校では自分たちだけで意見を出し合い、まとめ、打開策を立てるといって高いレベルな話し合いが行われていました。

Q. 「見学したことを生かして、今後どのような学年部会にしていきたいと思えますか。」

A. 「生じた課題を協力して解決できる、チームワークのある学年にしていきたいと思えます。」

Q. 「今後たくさん質問や意見が出て、その中からより良い質問と意見をまとめて、より良い学年にしていきたいです。」

一年生には先輩の姿から得たことを生かしてよりよい学年づくりをしてほしいです。(下入佐 椿華)

伊敷まち探訪

5月15日(日)に、栄門公園で「栄門バザール」が行われました。みなさんは参加されたでしょうか？

「つながる、このまち」を合言葉に、ここで学ぶ子供たち、働く大人たち、暮らす家族たちがつながり、栄門地区がさらに発展していくことを目的に開かれているこのバザール。実際にボランティアとして参加した人にインタビューしてみました。

Q. 「栄門バザールに行っ

た感想を教えてください。」

A. 「人が多く、屋台もたくさんあって楽しかったです。」

Q. 「栄門バザールを通して得られたことは、どんなことですか？」

A. 「地域や地域に暮らす人々の手助けができて、達成感やうれしさを、そして喜びが得られました。」

Q. 「栄門バザールで一番楽しかったことはどんなことでしたか？」

A. 「金賞クロックを食べたことです。」



栄門バザールで総合的な学習のまとめのポスターを掲示する生徒

よかったです。みなさんもぜひ自分が住んでいる地域のためにできることをしてください。(上園 航平)

未来のために環境を考える

三年生は、昨年度3月に、SDGs学習の一環として、

原良にある、環境みらい館へ見学に行きました。昨今話題になってきているSDGsについて、今の日本や世界の現状、自分たちにできることは何か、学ぶべきことが多くありました。

今回、三年三組総務の徳留和虎さんにインタビューしてみました。

Q. 「環境みらい館で一番興味深かったものは何ですか。」

A. 「地球のCO2排出の、年月の経過による変化が一目でわかる地球儀です。講師の方の説明とその地球儀を見てみると、本当に地球をばいばい、と思いました。」

Q. 「環境未来館に行ってみてどう思いましたか。」

A. 「積極的にSDGsに取り組みたいと改めて感じるきっかけになりました。」

Q. 「今後、環境みらい館で学んだことをどう生かしたいですか。」

A. 「僕には4歳の弟がいます。そのため、ごみの分別など、覚えられることを覚えさせて、小さい子達にもそういう取り組みをさせていきたいです。」

今回の学習を通して、考えたことは多かったようです。皆さんも、一度、「SDGs」という大きなテーマ

マについて、考えてみてはいかがでしょうか？



環境みらい館の見学を行う伊敷中生

伊敷中では、昨年度使い捨てカイロの回収を行いました。皆さんのご協力のおかげでとても多くのカイロを集めることができました。このカイロは、海の水をきれいにする「ゴーグリーンキューブ」へと姿を変えます。この活動もSDGsの取り組みの一つで、私たちの未来をいいものにしていく大切な活動です。今年度も行う予定なので、皆さんの協力をよろしくお願います。(榎元 悠斗・南田 稔史)



伝統を受け継ぐ

4月12日火曜日の全校朝会にて、生徒会入会式が行われました。まず、生徒会役員23人が三大伝統である「門礼」・「黙想」・「朝作業」についてのソシオドラマを披露しました。伊敷中独自の伝統を、伊敷中ならではのソシオドラマで伝える。そんな姿を、一年生全員がとても真剣な眼差しで見っていました。二・三年生も、門礼の後「志・寛・練」を見つめることや、二着一目を呼び掛けられる前に、自分から時計を見て行うことなどの事項を、しっかりとおさらいする機会になったと思います。一年一組の総務である谷山弘さんはソシオドラマを見て、「伊敷中の一日の流れがよく分かりました。これから、生徒会活動を皆と協力して、生徒会の一員であるという自覚を持ちながら、積極的に取り組もうと思います。これからの伊敷中で過ごす生活がとても楽しみです。」と話していました。また生徒の一人として特に、テストに向けた勉強と、文化祭を成功させるための準備を頑張りたいと意気込んでいました。

ソシオドラマが終わると、生徒会長の田代紅愛さんから、一年生代表の池水晴香さんに生徒手帳が伝達されました。池水さんは伝達されるたびに、「先輩方と

もに伊敷中の伝統を受け継ぎ、さらなる発展を尽くすことを誓います。」と述べていました。これで、一年生の一人一人が生徒会の大事な一員です。伊敷中は生徒総会や文化祭をはじめ、生徒一人一人がいることで成り立つ行事がたくさんあります。去年はコロナによる不自由が多かった一年生でしたが、今年は制限が少ない中で、行事や活動が出来ると思います。そして、全校生徒が充実した日々を送ることができるよう、一人一人が自覚と誇りをもって、もっと生徒会活動に関わって、一年後に伊敷中の大きな花を咲かせられるといいですね。(小畑 三佳子)



生徒会長から生徒手帳を受け取る1年生代表の池水さん

編集後記

今年度はなかなか新聞が発行できず、この時期でが一学期の総集号のような形での発行となりました。これからも、生徒会活動や伊敷中学校の魅力について情報を提供していきたいと思えます。